

稲絵アートフェスティバル



1) 田んぼをキャンバスに

県内屈指の稲作地帯である北杜市内の水田をキャンバスに見立て、水田のすばらしさや魅力、未来に希望が持てるメッセージを全国に発信するため、平成 19 年から稲絵アートを実施しております。北杜市の特徴を生かした取り組みを、話題性に富み県内外から本市への誘客促進と農業のおもしろさをより多くの人に知ってもらう良い機会として「稲絵アートフェスティバル」を国民文化祭北杜市主催事業と位置付けました。

2) ありのままの風景を芸術に (H24 年プレ大会)

色の違う 2 種類の稲を使い悠久の時の流れをテーマにシルクロードの絵を描く「稲絵アートフェスティバル」を開催しました。さらにこの稲絵アートを通じて、東日本大震災の復興を願って、皆が未来に希望が持てるようなメッセージを同時に発信しました。田植え稲刈りについては、地元小学校の体験学習の場として活用し、本市への誘客と農業のおもしろさを伝えるきっかけとなりました。

5 月 31 日：紫稲の田植え

《紫苗の田植え》



《育苗》



～未来に希望がもてるメッセージ～

6 月～9 月：生育期間



《生育状況》

9 月 27 日：紫稲の稲刈り

《紫稲の稲刈り》

～秋晴れに恵まれた収穫作業～



3) 稲絵アート発展のために (H25 年本大会)

記念すべき国民文化祭を表現するため、富士の国やまなし国文祭マスコットキャラクターのカルチャクんと、東京藝術大学の宮田亮平学長から「旅立」の文字と学長印であるイルカをデザインしていただきました。このデザインには、勇気と希望を持って新しい世界へ旅立ち、未来へ大きく飛躍して欲しいと期待がこめられており、「稲絵アートフェスティバル」を通して広くメッセージを発信してきました。

また、さらなる発展の足掛かりとして、紫稲を使った加工品の制作にも取り組み、製品は、小淵沢小学校 5 年生児童へ配布するとともに、道の駅こぶちさわレストランにおいても販売され、たくさんの利用客に好評をいただきました。

5 月 29 日：紫稲の田植え



体験学習

《小淵沢小 5 年生児童：田植え、稲刈り》



田植えの指導



手作業の刈り取り

9 月 26 日：紫稲の稲刈り

～豊作の実りに感謝～



～たくさんの方に楽しんでいただきました～



生育状況

《紫稲の有効活用》



クッキー



古代米定食



稲絵アート展

《小淵沢地区文化祭》

4) 市民全員の芸術作品へ・・・

育苗、田植え、稲刈り及び商品化まで一連の流れを達成できた「稲絵アートフェスティバル」の取り組みは、本市への誘客促進や農業のたのしさを伝える一翼を担いました。今後はさらなる発展を目指し、広く市民参加を呼びかけ魅力のある事業としていきます。